

## 1. 大学としての教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等

本学は、昭和 28（1953）年に中部社会事業短期大学として創立されて以来、すべての人が、安全に、安心して、その人らしく幸せな生涯を送ることができるような福祉社会の担い手となる専門職者の養成に力を注いできた。本学の建学の精神は「この悩める時代の苦難に身をもって当たり、大慈悲心、大友愛心を身に負うて社会の革新と進歩のために挺身する志の人」を養成したいとの決意を述べている。永遠向上の世界観と大慈大愛に生きる人生観を把握した健全な人格を育て、広い世界観を持ち、人類のために自己を捧げることが惜しまない志のある広い人間性を持った人間の育成が、その精神の根幹にある。全ての人々が人間としての尊厳と人権が守られ、健康で文化的な生活を送ることができ、人間としての限りない発展が可能になる社会を形成するためには、本学の建学の精神に基づく教育は極めて意義があるものと考えている。今日の教育が立ち返るべき道を示唆しており、教員養成においてもこの建学の精神に基づいた教育が必要不可欠と考え、これを実践しているところである。

今日、わが国の学校教育は未曾有の困難に遭遇している。不登校、引きこもりなどの問題行動と共に、陰湿ないじめの問題が自殺につながるケースも多発している。また、あつてはならないことだが、学校内で子どもが子どもを殺傷するという事件も発生している。物質的な豊かさの陰で心の荒廃とモラルの低下が進行し、人間としての秩序や規範、そして相互互恵の精神が低下しつつある社会の影響が、学校という子どもを守り育むべき場を大きく変える契機となったように思われる。

学校教育現場のさまざまな困難の克服は、教育の主体者である教師の資質向上なくして成り立ち得ない。そのためには現職教育を含めた教師養成のあり方が問われることになるが、特に教師養成の軸になっている教職課程の充実が何よりも重要である。具体的には、教育指導の力量を高めるために、大学全体の広い視野を育てる人間教育を基礎として、教育学、心理学、社会学等々の基幹となる科目により論理的・専門的な知識を得させ、更にその上に立って教職インターンシップ、教育実習、教職実践演習等の実践的な教育や社会経験を通じて、総合的な教師養成の体系を追求することが必要であると考えている。

なお、本学における教職課程は、昭和 36（1961）年度より幼稚園、昭和 38（1963）年度より中学校・社会科及び高等学校・社会科（現在は公民科、地理歴史科）を置き、さらに平成 14（2002）年度からは高等学校・福祉科の課程、平成 15（2003）年度からは高等学校の情報科と商業科の課程、平成 20（2008）年度からは小学校の課程を加え、これらを基礎免許状とする養護（特別支援）学校教諭の養成も全国に先駆けて行ってきた。このように本学は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭とともに、多くの養護学校教諭の人材育成に努めており、その結果、本学が輩出した教員免許取得者は、電子データとして保存されている昭和 58（1983）年度からの累計だけで延べ 11,700 人を超え、養護（特別支援）学校教諭については、2,200 人を超える資格取得者を社会に送り出している。今日、特に養護学校教諭となった多くの卒業生は、校長・教頭等の管理職となり、愛知県を中心として全国の学校教育の現場で活躍している。その成果の一つとして、これらの卒業生が、本学の授業の中でゲスト講師として教壇に立つ、或いは教員志望学生に対する援助・助言を行うなど、卒業生と連携した指導も行われている。